

日本退職者連合「社会保障・年金制度」学習会に参加！

日本退職者連合は、3月27日連合本部会議室で慶応義塾大学の権丈善一教授による「大きな転換期にある社会保障と財政」と題して講演を受け、年金制度の現状と問題点についての学習会を行いました。会場には200名を超える参加者が集まり、JR 総連 OB 連絡会から6名（貨物労組OB会2名）が参加しました。

主催者を代表して人見会長は、「私たち高齢者にとって社会保障制度は重要な課題であり、しっかり学んでほしい。また、退職者連合は7月12日に定期総会を開催し、①社会保障の取り組み、②政治の流れを変える闘い、③女性参加・組織拡大の取り組みを決定しました。また、夏の参議院選挙に組織内候補10名の全員当選と安倍政権の暴走を止めるために全力で取り組んでいきたい」と挨拶を行いました。

講演において権丈教授は、今年は5年に一度の「年金制度の財政検証」であり、年金制度の現状と課題について講演されました。現状として、①日本は高齢者率と社会支出は国際的にもダントツだ。②「年金の現状と将来」について、世代間で差があり対立もある。③社会保障制度は、国民負担と赤字国債で賄っている。④日本の人口が減少＝「労働人口の減少」が大きな問題となっている。⑤「騎馬戦」から「肩車」であり2.6人で1人を養っている。

課題として、日本年金学会で“人生100年時代の公的年金「保険」”での検討内容について、①マクロ経済スライドの仕組みの見直し（フル適用の試算）、②被用者保険のさらなる適用拡大、③保険料拠出期間と受給開始年齢の選択制などについて問題提起がありました。

まとめとして、「社会保障へのニーズを柱に、高齢者が生き生きと社会参加できる環境をつくることで、福祉国家として付加価値を高め皆で支える合える社会にすること」そのための制度改革をつくり、負担を皆ですることが必要であると提起されました。

その後、参加者から意見や感想が出され、学習会は成功裡に終了しました。

社会制度・年金問題は、安倍政権下での「改革」が求められており、私たち自身の問題であり、決して他人事ではありません。高齢者が元気で明るく暮らせる社会をつくる為に頑張りましょう。

